

派 遣 報 告 書（報告者：樋口俊司）

大会名	第 80 回南九州 4 県対抗バスケットボール選手権大会
開催地	鹿児島県始良市 始良市蒲生体育館、ビーラインスポーツパーク始良
日 時	令和 7 年 4 月 26 日（土）～ 27 日（日）
担当ゲーム 1	（女子） 藤蔭（大分県） vs 熊本第一（熊本県）
クルー	CC: 樋口俊司（大分県） U1: 田丸祥子（鹿児島県） U2: 日高健史（鹿児島県）
担当ゲーム 2	（女子） 熊本商業（熊本県） vs 鳳凰（鹿児島県）
クルー	CC: 樋口俊司（大分県） U1: 森本滉生（大分県） U2: 笹沼晃太（宮崎県）
担当ゲーム 3	（男子） 鹿児島工業（鹿児島県） vs 宮崎工業（宮崎県）
クルー	CC: 樋口俊司（大分） U1: 豊倉和樹（鹿児島県） U2: 森本滉生（大分県）
（担当ゲーム） Pre-Game Conference	
○ Area について（Edge, HelpDef） ○ Mech について（EarlyRotation） ○ Primary と Secondary の考え方の確認 ○ UF4 について ○ 新ルールの確認 ○ チーム情報	
（担当ゲーム） Post-Game Conference	
○ UF 適用ケースについて、criteria の確認 ○ コールができなかったケースについて、Mech の観点からの approach と Discussion ○ ベンチへのコミュニケーションについて discussion（Short and Clear を目指すための言葉のチョイス） ○ Rotation について映像を使った Discussion	
今大会に参加しての感想など 年度当初ということもあり、人事異動等ある中で、このような大会を運営された鹿児島県の皆様におかれましては、まずもって敬意と感謝しかございません。ありがとうございました。 全中を控える中、鹿児島県 B 級の皆さんが意識を高めてゲーム運営をされている姿を拝見しました。特に“処置ミス 0”へ向けた表示物の意識の高さについて、鹿児島 IH から国スポそして今年度予定されている鹿児島全中に向けて取り組んでいる姿かと思います。本県 B 級の皆さんへ還元できるよう、オンザコートで示せるように努力してまいります。 担当ゲームの反省については、改めて 3PO のベーシックを実践することにチャレンジすることを PGC にて確認し、ゲーム中も Lead していくように努めました。その中でメカのトラブルによる判定できないケースを終了後に映像にて確認し、T,C からの笛を cadence で強い Crew を出せるかをポイントに置き反省を実施しました。自身もそうですが、はじめてクルーを組むときに大切なことは、私自身がオープンマインドでいることだと改めて再認識しました。ライセンス・年齢・性別を超えた“是々非々”の精神を発揮することは、個人としてメンタルの準備を行うのは非常にむずかしいことで、ブロック大会ですと試合開始前の 90 分前に挨拶を交わすことも多いですから、心を砕いて接する気持ちを持ちつづけたいと思いました。またゲーム中にクルーを引っ張っていくためにも、事実をつかむための IOT の向上、より説得力のある判定をデリバリーできるベーシックなメカニクスの実践をすることは県内でも継続していきたいと思いました。 本大会では、大分勢が各パートで目覚ましい成績を収められており、非常に喜ばしい結果に終わりました。来年は大分開催となることから、大きなトラブルなく終えるために今大会で私自身が感じた刺激を県内に持ち帰り、何かできないかなと思っているところです。審判委員会の皆さんと相談をしながら進めたいと思います。 最後に、ホスト県である鹿児島県バスケットボール協会の皆様には期間中、様々な配慮をいただき、謝意を述べるとともに、派遣にあたり本県バスケットボール協会の皆様にはご理解とご協力を賜り、心からお礼を申し上げます。	